

編集後記

今月の特集は ADL である。いまさら日常生活動作の議論をして何か新しいことがあるのかと読者諸兄姉はお感じになったかもしれない。しかし、ADL の複雑さと理解度のいろいろな相違を、またあらためて知らされたことが分かるであろう。障害の医学における ADL の評価手段の非科学性が安藤・大川氏によってまず論じられた。片麻痺患者を例にとって寺山久美子氏は病院内、家庭内、施設内そして職場内での自立という点を要領よくまとめられた。職業復帰が困難なこの疾患において身辺処理動作の自立は完了しても生きがいのある仕事には就けないという多くの患者の嘆きを問題として出している。高橋孝文氏は脳性麻痺児の療育という点から ADL, ことに上肢機能の習得と学習基礎能力の習得について preschool age のより一層の配慮を訴えられた。一方、兼松英夫氏らの論文でもわかるように、本邦の脊髄損傷患者の就業率が正確な数字で捉えられていないということ

は福祉国家を自負する本邦としては自慢にならないことである。視覚聴覚障害者にいたってはもっと就業率は低く実態も不明とのことであった。ROM と ADL の関係を村田氏が述べたが、評価手段に科学性を持たせるための方法として大切なことであると考えられる。身体の手キャップを住居の改良である程度克服することは誰でも知っているが、より実際の空間利用法の例が陳慧玉氏によって解説された。その他、多くの方々から熱心な御意見をいただき、なるべく真意を伝えるべくアンケートのまとめに記載させていただいた。以上の諸氏の熱意ある論文は、ADL はいかに関心が深く、いかに混乱があるかを物語っているようであった。

その他リハビリテーション診断学は穂山富太郎氏らで10回を数え、手塚直樹氏の医事法制もわれわれの日常診療上避けて通ることの出来ないものである。(大井 淑雄)

次号予告(第4巻第11号)

特集 関連職種教育

関連職種教育の世界情勢……………	国療東京病院	芳賀敏彦
理学療法士、作業療法士養成校の現状と問題点(公立校の立場から)……………	国療近畿中央H.リハ学院	池田一郎
理学療法士、作業療法士養成校の問題点(私立校の立場から)……………	社会医学技術学院	下河辺征平
義肢装具製作技術者の養成における問題点……………	都補装具研	加倉井周一
言語治療士の教育……………	都老人研	笹沼澄子
ソーシャルワーカーの養成と現況……………	関東通信病院	高田玲子
看護婦の養成と現状……………	川崎医大	坂本澄枝
PT, OT 養成校の問題点……………	国療東京H.付属リハ学院	楠和佐子
PT, OT 養成校の問題点……………	九州リハ大	佐藤剛
4年制PT養成校のカリキュラムについて……………	高知リハ学院	長田松義
パラメジカル養成の根本問題への挑戦……………	川崎医大	水野祥太郎
講座 リハビリテーション診断学(11)		
CPの診察法(3)……………	聖母整肢園	梶浦一郎

編集顧問

天児民和
大島良雄
小池文英
砂原茂一
津山直一
水野祥太郎

編集委員

明石謙
上田敏
大井淑雄
大川嗣雄
荻島秀男
土屋弘吉
横山巖

編集同人

赤津隆
今田拓
今村哲夫
江口寿栄夫
小野啓郎
河邨文一郎
五味重春
沢村誠志
杉山尚
武智秀夫
永井昌夫
中村隆一
野島元雄
間得之
長谷川恒雄
橋倉一裕
平方義信
福井罔彦
三島博信
渡辺英夫
飯川卯之吉
遠藤千恵子
小川孟
加藤一郎
小島蓉子
笹沼澄子
鈴木明子
高田玲子
陳慧玉
土屋和夫
松村秩

(以上五十音順、敬称略)

(細田、田村、鹿島)